

令和８年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立白河第二中学校長

令和８年４月２３日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は３年生で、国語、数学、英語の３教科を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、生徒の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率（英語はＩＲＴスコア）の比較】

教 科	全国平均 正 答 率	下回って いる	やや下回 っている	ほぼ同じ	やや上回 っている	上回って いる
国語	６３．９％					○
数学	５７．０％			○		
英語	４９９点	○				

※中学校英語はＣＢＴ（コンピューターテスト）のため、「ＩＲＴスコア」になります。

「ＩＲＴスコア」とは国際的な学力調査で採用されているテスト理論で、この理論を使うと異なる問題から構成される試験の結果を同じものさし（尺度）で比較できます。なお、標準点は５００点となっております。

【国語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
言葉の特徴や使い方に関する事項	63.0%		○			
情報の扱い方に関する事項	70.4%					○
話すこと・聞くこと	63.9%					○
書くこと	67.4%					○
読むこと	59.7%				○	

【考 察】

- 全体的に全国平均正答率を上回る結果でした。特に「話すこと・聞くこと」の領域では、全国平均正答率を大きく上回りました。資料を正しく読み取り、他者との交流を通して、自分の考えを論理的に表現する活動に数多く取り組んだ成果と考えられます。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使えるかを見る問題に課題がありました。今後は、日常的な読書の習慣化や辞書を引く機会を増やすとともに、文の構成を意識した学習課題の設定をするなど、指導方法を工夫してまいります。

【数学：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	67.8%					○
図 形	48.7%	○				
関 数	54.8%					○
データの活用	53.5%				○	

【考 察】

- 「数と式」、「関数」の領域において、全国平均正答率を上回りました。特に「関数」領域では表やグラフから、必要な情報を読み取る力が優れています。今後も、文字や式を使うことの有用性や利便性を実感させたり、関数の式、表、グラフの関連性を捉えて考察させたりする活動を通して、数学的な見方や考え方を伸ばせるよう工夫してまいります。
- 「図形」の領域において、思考・判断・表現をみる問題の正答率が低く、記述式を苦手とする傾向が見られました。自分の考えを説明したり、話し合いをしたりする中で、根拠を明らかにして筋道を立てて考えることを意識付けて、課題の改善を図ってまいります。

【英語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

※英語については、公表されている問題が全体の５割程度であり、国語や数学のように領域の正答率が提供されていないことから、考察のみ記載いたします。

【考 察】

- 「聞くこと」の領域では、目的や場面に応じて必要な情報を判断する問題に課題が見られました。今後は、聞き取った内容を整理し、目的や場面に応じて必要な情報を選択・活用する活動を取り入れ、聞く力の向上を図ってまいります。
- 「読むこと・書くこと」の領域では、英文の内容を理解する力は概ね身に付いていますが、場面に応じて適切な表現を用いて英文を書く問題に課題が見られました。今後は、既習表現を活用しながら、自分の考えや情報をまとまりのある英文で表現する活動を充実させ、書く力の向上を図ってまいります。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 質問紙調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立白河第二中学校長

「全国学力・学習状況調査」では、学習や生活の状況について質問紙による調査も実施しましたので、一部ですがその結果及び考察をお知らせいたします。

特に、生徒の家庭学習の取組や授業の様子に関する調査結果を公表し、学校と家庭・地域の協力体制を強化していくことを目的としています。

この結果を、ぜひご家庭でも子どもさんと一緒に話し合っ、家庭生活の見直しに役立ててくださるようお願いいたします。

- 1 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

		できている	どちらかといえば できている	どちらかといえば できていない	できていない
中 3	全 国	27.4	50.8	18.6	2.7
	白二中	18.4	55.3	24.1	0.7

(単位 %)

【考 察】

- 全国と比べると学び方を考え工夫できていると捉えている生徒は少ない結果となりました。今後は、生徒一人一人の学習状況に応じて、自分に合った適切な学び方を選択できるように、学習方法を紹介したり助言したりして支援してまいります。
- 辞書やタブレット端末等の活用をさらに推進するとともに、授業でも生徒が「調べてみたい」「挑戦してみたい」と思える働きかけや問いかけをしてまいります。

- 2 授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

		3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	全くしない
中 3	全 国	8.9	21.2	31.5	19.5	11.5	6.9
	白二中	2.1	17.0	43.3	28.4	7.1	2.1

(単位 %)

【考 察】

- 1時間以上勉強している生徒が62.4%と全国平均をやや上回っております。今後も授業と家庭学習の関連を図り、より効率的、効果的に家庭学習に取り組めるよう指導してまいります。
- 「全くしない」と答えた生徒の割合は2.1%で、全国平均を下回っていますが、1時間未満の生徒の割合が3割を超えています。進路指導と連携し、具体的な目標をもたせることで、学習の質・量ともに改善が図れるよう指導してまいります。

- 3 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
中	全 国	29.3	49.7	17.2	3.2
3	白二中	27.0	53.2	17.0	2.1

(単位 %)

【考 察】

- 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が8割を超えており、全国平均を上回っております。振り返りの活動の充実を図り、次の学習へのつながりを意識した指導を継続してまいります。
- 今後も授業の課題（めあて）を明確にし、生徒が「何を学習するのか」を意識できるように授業を進めてまいります。また、授業や単元の終わりに学習内容をまとめることで「何ができるようになったのか」「何がわからなかったのか」を明らかにし、次の学びにつなげられるよう支援してまいります。

- 4 昼休みや放課後に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室にどれぐらい行きますか。

		だいたい週に 4回以上行く	週に1～3 回程度行く。	月に1～3 回程度行く	年に数回程 度行く	ほとんど行 かない	まったく行 かない
中	全 国	1.8	6.0	10.4	11.6	21.5	48.3
3	白二中	0.7	6.4	16.3	19.1	29.1	28.4

(単位 %)

【考 察】

- 「まったく行かない」「ほとんど行かない」を合わせた割合が全国平均を大きく下回っており、全国平均と比較すると図書室や図書館を利用している生徒が多くいます。読書活動への呼びかけ、朝の図書室開放の取り組みが成果として表れています。
- 今後は、図書を担当する教員と学校司書の連携を図りながら、読書活動を盛んにするとともに、さらに授業で資料を活用したり、調べ学習等で利用したりできるように工夫をしてまいります。